

# 日本漢方協会通信

2018年7月

## 実用漢方処方集の第4改定

今までと同じ編集方針の部分は以下のとおり

(目)

- ① 収載した薬方  
現在使用されている漢方処方集に記載されている薬方をすべて収載することと努めた(合計約一、六〇〇)。
- ② 第一次選択処方集
- ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- ㉑ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉒ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉓ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉔ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉕ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉖ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉗ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉘ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉙ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉚ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉛ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉜ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉝ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉞ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㉟ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊱ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊲ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊳ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊴ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊵ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊶ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊷ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊸ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊹ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊺ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊻ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊼ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊽ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊾ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)
- ㊿ 「漢方処方集」 龍野一雄編著(中国漢方)

平成元年に日本漢方協会20周年の企画とし「実用漢方処方集」が出版された。現在ま3回の改定がおこなわれ、内容の訂正、新処方の追加など皆様の意見がとりこまれてきていた。第3版以後、「新一般用漢方製剤製造基準」ができ、それに基づいて「薬局製造販売指針」も改定されてきている。

新210処方方がすべてが薬局製剤となるのは先になると思われるが、日本漢方協会の50周年の企画として第4改訂版を計画した。

### 改訂三版 実用漢方処方集

藤平健・山田光胤 監修  
日本漢方協会 編集



表紙は初版は赤・第2版は青・第3版は青だった。今度の第4版は土の色で茶色とすることになった。(黄色は目立つが汚れやすいという意見で)

初版の序文を載せる

日本漢方協会の漢方処方集を発刊するに際し、まず本書を監修していただいた日本の漢方界を代表する藤平健、山田光胤両博士に心から感謝を捧げる次第である。

当協会は創設(一九七〇年)以来、満二十周年を迎える記念事業のひとつとして実用な処方集を出版するのはこびととなった。そこで編集委員合を結成、企画構成案をつくり検討を繰り返して、丁度辞典の編纂と同じようなカード作りや文献の集約など細かい作業にはいつてすでに三か年に及んだ。刊行にあたって本書が日常の漢方治療の実際の場において活用していただけることを希望するとともに、漢方を学習する方々のお役に立つことを切に願うものである。

古来、漢方の処方(正式には薬方)は、分量や構成生薬の組成、成分比などに種々の問題をかかえているが、本書ではあくまでも標準的なものを提示しているので、いわゆる「匙加減」などは実際の臨床の場で比較、検討し研究して欲しい。

本処方集を編集発刊するにあたり、近代(ことに昭和時代)にはいくつ文獻類はほとんど参照させていただいたつもりである。ここに参考にさせていただきます。また、原稿作成、校正など煩瑣かつ地味な作業を、三上正利専務理事を中心として遂行してくれた若手ながら俊英の当協会学術委員の面、印刷出版の券をとっていただいた藤井美樹博士に感謝するとともに、貴重な文献をお貸しいただいた藤井美樹博士に厚く御礼申し上げます。

平成元年四月

序

改訂第4版の編集について

各処方の最後に掲載していた「一般用漢方製剤製造基準(いわゆる210処方)」と「薬局製造販売指針(薬局製剤品目)」の収載処方は一先頭を持ってくるようにし、又目立つように太文字にする。薬局製剤指針では剤形を優先し、剤形により「〇〇丸」「〇〇丸料」や「××散」「××散料」と名称を統一しているためそれに習った。たとえば茶剤しか承認されていない「加味逍遙散」は「加味逍遙散料」名称を変更することとなった。また処方の後に「以上何味」と薬味数を入れることとした。処方名のルビを全部に付ける。

処方掲載順序はいままでどおり、薬方名第1文字の発音順とし、同じ音野中では画数順とすることとし、第2文字以降は、温順にすることとした。なお、加減方は原則として基本処方の後にした。これによって、五十音順だと葛根湯加川芎辛夷→葛根湯となってしまうが、葛根湯→葛根湯加川芎辛夷と並ぶようにしている。

お願い  
現在の処方集の直すべき所についてファクシミリなどでお知らせ下さい。 三上記

改定序文と凡例を整理し直す